

# 平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

玉木学園 長崎玉成高等学校

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
学校法人玉木学園	高等学校	全日制	<small>ながさきぎよくせい</small> 長崎玉成高等学校

### 2 研究課題

「私立高校における発達障害のある生徒へのキャリア教育～職業訓練の充実と面で支える教師集団作り～」というテーマのもと①全日制普通科におけるキャリア教育において社会的自立を図るために、現在本校が行っている模擬会社等の「職業訓練」の充実を図る。②教師の人権意識を高め、面で支える教師集団作りの一つとして全職員で成果報告をまとめながら、教師の指導力向上を図る。

### 3 研究の概要

① 職業訓練の充実。

恒常的な職業訓練の場として設置した「玉成ベーカリー社」は、平成25年度に設置し平成26年度が本格的な活動の年であった。4月の履歴書作成・入社試験・入社式を経て各部署に配置。社長・副社長・各部長を中心に、1年を通じて活動を行った。また「玉成ワーク社」において「会社員」としての体験を行った。その他2年次の「パソコン」、3年次の「電卓」の授業においてはそれぞれビジネス文書検定速度部門検定試験および珠算・電卓実務検定試験を受験した。「SST」「LST」の授業においてはコミュニケーション力・人間関係力・ストレスマネジメントについて学習を行った。

② 面で支える教師集団作り

取り組みの根本となる教師の人権意識の向上という視点から、5月に「人権教育の指導の有り方」の研修をそして7月に全校生徒に向けて人権学習を行った。また就労支援に関する「事例検討会」は全職員参加にて行い、当事者保護者の話を聞き、外部協力者の指導助言を受け、理解を深めた。そしてキャリア教育・授業のユニバーサルデザイン化の工夫改善・青年期の特別支援教育などについて全職員が執筆し成果報告書にまとめた。

#### 4 研究の成果

##### この1年間の取り組みの結果

発達障害およびその可能性がある生徒13名の卒業後の進路は、進学3名・一般就職3名・障害者雇用枠を利用した就労2名・就労移行支援事業所2名・職業準備訓練中3名という結果であった。障害者雇用枠希望の生徒に対しては、ハローワーク長崎・長崎障害者職業訓練センター・長崎県発達障害者支援センターとのケース会議を8名に対してそれぞれ2回ずつ行った。2年生を対象としたビジネス文書検定試験においては15名中14名が初段から4級までをそれぞれ取得した。また3年生を対象とした電卓実務検定試験普通計算部門においては19名中18名が1・3級をそれぞれ取得した。これらの取り組みにおいて、就労支援コーディネーターは、一人ひとりの就労に向けてアセスメント・相談業務・職業訓練・就職試験準備・保護者および関係機関との連携といった役割を担った。この配置により平成25年度に比べてより細やかな指導を行うことができた。また、教職員集団の指導力を育成する取り組みは、各種研修や取り組みに関する執筆作業を通して「根拠のある支える力」の養成に繋がった。

#### 5 課題と今後の方策

この1年間の取り組みの中で明らかになった課題としては、全日制普通科での絶対的な職業体験の不足が有り、現実的な自己理解が十分進まなかったことが挙げられる。仕事に就くにあたり、自分は何が得意で何が不得意なのか。仕事を継続していくには、高校生活において基本的な生活習慣の確立がビジネスマナーの第1歩であることに自ら気づくことが重要である。今後は、1、職員の研修を深める。2、校内模擬会社の充実を図る。3、本校独自の検定試験を開発する。4、企業開拓・職場実習先の新規開拓をはかり、職業体験を増やし様々な人たちと交流を図ること。これらの学習体験を通して、客観的な自己理解を図り自ら進路を選ぶことが出来るようになり、卒業後の社会参加・生活自立に繋がたい。